

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 78 (年4回発行)

■発行日 平成28年1月1日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1 (旧若駒寮)
TEL/FAX (62) 3988

平成二十七年度「まちづくり懇談会」 テーマ『少子・高齢化を迎えた 地域の課題について』

十一月二十五日、三春交流館まほらのホワイエで、約七十名の参加者を得て、平成二十七年度「まちづくり懇談会」が開催されました。この懇談会は、年に一回各行政区毎に実施されるものです。今回は懇談会後半に「議会議員との意見交換会」が実施されました。

▽幕田協会長あいさつ
今年度は、趣向を変えまして三春まちづくり懇談会の後に議会議員との意見交換会を実施いたしますので、宜しくお願いいたします。

▽鈴木町長あいさつ
三春まちづくり協会の日頃の活動に対し感謝いたします。また町事業へのご支援ご協力を重ねてお礼申し上げます。今年度は各地区の協会とも工夫を凝らした懇談

新年のご挨拶



三春まちづくり協会長 幕田勝寿

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈り申し上げます。

平成二十三年三月に発生した東日本大震災も、まもなく五年になろうとしております。除染作業も各地に進んでいるようであり、まちづくり協会も、各部会長さんを中心に活動計画、実施を進めているところであります。中心市街地の空き店舗等の活用も着々と進んで、賑わいのまちづくりが出来つつあると思われ、三春まちづくり協会としても協働のまちづくりに向け頑張っておりますので、宜しくお願いいたします。

新年のご挨拶といたします。



「まちづくり懇談会」

町役場から配布資料についての説明がありました。説明のあった項目は次の通りです。

- ① マイナンバー制度とは？ (総務課)
- ② マイナンバー(社会保障・税番号制度)が始まりました (総務課)
- ③ 借入金(町債)と預金(基金)の額(財務課)
- ④ 平成二十六年度決算に基づく健全化判断比率一覧(財務課)
- ⑤ 除染の進捗状況について(除染対策課)
- ⑥ ここに二元気塾の参加者を募集しています (保健福祉課)
- ⑦ 期間内に「成人けんしん」をうけましょう (保健福祉課)
- ⑧ 平成二十七年度のインフラエンゼル防接種について(保健福祉課)
- ⑨ 一級河川桜川河川改修事業について(建設課)
- ⑩ 平成二十八年度以降新入学児童一覧(教育課)
- ⑪ 町からのお知らせ
- ⑫ 平成二十七年度福島県原子力防災訓練(総務課)
- ⑬ 「まほら」ニューイヤークンサート2016日本フィルハーモニー交響楽団(生涯学習課)
- ⑭ まちづくり懇談会質問事項に対する回答
- ⑮ 旧三春中学校の利活用について
- ⑯ 会下谷橋の移動に伴う町

道の拡幅工事の要請について

③ 除染について
④ 桜川工事の進捗状況と工事終了後の整備計画について

- ⑤ 愛宕神社土手の土砂崩れ防止対策について
- ⑥ 信号機について
- ⑦ 道路整備について
- ⑧ 八島川河川工事について
- ⑨ 環境について

主な質問と回答

「マイナンバー制度のメリットと個人情報漏えい等セキュリティについて」
行政手続等が簡素化され利便性が良くなり、安全性についてもカード自体には個人資産等の情報は入っており、セキュリティーも万全なものと考えられます。

「個人番号の取得は任意であると思うがどうか」
取得は任意です。公務員の削減など時代背景を考えると行政サービスを得る場合IT技術等を活用すべきと考えられます。身分証明証にもなりますので、町としては取得をお願いいたします。

「費用について」
個人番号カード取得は初回申請は無料、再発行等二度目からは有料です。「コンビニでの行政サービスの利用方法はどうか」
個人番号カードが必要でマルチコピー機を利用し自分で操作。店員さんと



の直接のやり取りはありません。

■主な意見、質問と回答
「三春町の高齢化率について」
三春町全体で二九・七九%です。高齢化率は全国的に上昇傾向にあり三二年度三三・一%、三十七年度三六・七%と推計し「高齢者いきいきプラン」を策定して進めていきます。
「少子・高齢化の結果として空き家が問題になってくるがその具対策については」
家屋に関する情報等をデータベース化(今年度中)し、様々な情報を提供できるシステムの導入によりスピーディーな対応が出来るようになります。

「少子化対策は」
町では、人口ビジョン(総合戦略)を作り、今年度より五年間集中的に実施していきます。総合戦略の紹介を「広報みはる」一月号から何回かに分けてお知らせいたします。
「原発事故の賠償請求と実績は」
総額で一億二千八百九十七万を請求しています。賠償された金額は一千七百六十二万が賠償されています。実績は一割強ですが、これは直接被害が有ったものから優先され賠償されている為です。今後、残りの分もあきらめず請求していきます。
「除染の基準値が年間二十ミリシーベルトに緩和されるのか」
基準値は町の計画通り一ミリシーベルトで実施していきます。廃棄物の中間貯蔵施設は国策で進められていますが、早期建設・早期搬出について環境大臣など関係各所へ今まで通り、強く要望していきます。



「議会との意見交換会」

三春町議会では改革を進め、十月の臨時議会で「広報広聴特別委員会」を新たに設置し、今回、町民の方々と意見交換会を実施することにいたしました。意見交換会に先立ち議会より配布資料について説明がありました。

■議会からの配布資料
① 平成二十七年度「議会要覧」について

■主な意見、質問と回答
「議員定数削減にむけて、議論されても良いのでは」との意見もある。議会の考え方今後の方向性は「議会の中で話し合い、議員四年間の任期の中で改選一年前までに結論を出したい」と思っています。
「コンパクトシティについて少子高齢化等、議会としての施策はあるのか」
意見とお聞きして今後議会の中で議論したいと思

います。
「議会での質問時間は」
質問者の持ち時間は、執行側の答弁時間を含めず質問時間のみ合計で三十分間です。

「まちづくりの面で個人情報保護法がネックとなる場合があるが」
個人情報保護法に基づき町では保護条例と情報公開条例を策定して、これにより保護しなければならぬ個人情報情報は当然守らなければならない。

協会活動だより

全体事業

視察研修旅行

(北町委員長)

山口 洋一

十月十五日(木)雲一つない、まさに日本晴れ。会長以下三十二名は、松島方面に向け出発した。午前中は瑞巖寺視察。改修作業中で本堂の建物を見ることはできないが、案内者の話を聞きながらゆっくりと庫裏の展示品を見た。京都で修復された襖絵の原寸大写真を貼った襖や、普段なら遠くで見られない上々の間も移築されていて、間近に襖絵や欄間の彫刻を、ガラス越しではあったが見ることができた。また、特別公開されたご本尊、大位牌さらに三代開山木像など滅多に見ることができない経験ができた。



三春藩ゆかりの、愛姫の墓堂の陽徳院御霊屋(寶華殿)が創建当初の豪華絢爛な姿に復元され、周辺も大変整備されていた。皆さん納得の表情でした青龍殿(宝物殿)を見学し、記念写真を撮り十分堪能した研修をする事ができた。昼食後ビール工場で「ほうほう」「ふんぶん」などと感心しつつ、おいしいビールをいただき、帰路についた。

散策路ウォーク

(地域部会長)

鈴木 武

十一月十日三春観光ボランティアガイドの会から深谷副会長さんほか二名の方に案内役をお願いして散策路ウォークを午前九時から十一時三十分まで実施いたしました。前日に降った雨により足元に不安があり中止も検討しましたが、当日は曇り空ではありましたが、紅葉も見事であり実施することにいたしました。部会から事務局を含めて四名と町民の方十七名計二十一名の参加となりました。散策路ウォークの道順は明徳門の説明から始まり愛姫誕生記念碑、二の丸跡、国道を下り北野神社、紫雲寺途中トレイルタイムを挟んで桜川沿いの川前紫雲と安積良齊に因る百杯宴の碑、不動山散策路を案内人から説明を頂きました。参加者の中にも歴史に詳しい方がいて、案内人に突っ込んだ質問をしておりました。

一ヶ所あたりの説明が詳しく歴史に興味のある参加者からは今回限りでなく続けてほしい、また町内に限らず町外の人にも参加させて人を町に呼び込んでほしいという声もありました。神社仏閣や遊歩道を鮮やかに飾る紅葉に歴史と文化、自然に親しんだひと時を楽しむことができました。

生涯学習部会

部会長 橋本 俊宏

今年度の事業として、昨年好評であった人生の終活についての講演会を行いました。

自分らしい終い支度「からだど頭が動くうちに自分で決めておきましょう」というテーマで終活カウンセラー、石井泰子先生にお話しをいただきました。



県内には百歳以上の方が約九百七十人いるとの事です。家族に見守られ長生きして幸せに暮らしている人もいれば、その反面一人暮らしで死んでも誰も気付かない事もあるという話を聞いて、現実の厳しさを知りました。人には平均寿命と健康寿命があり、その間の事を余命という事がわかり、いかに自分らしい生き方をすることが大切だということを感じました。世の中には仕事が好きで好きな人がいて世の中はほんとおもしろいと思えます。しかし私的には人生の終わりに少しは世の中の役に立つ事をしたいと、遺書の書き方なども学びますが、皆さんから質問などもありけっこう盛り上がりましたがその後に、チョッピリ静かになりました。人生の終わりは誰にもいつかはきます。出来れば家族に見守られての最後が理想だと思えます。そのためには家族とのコミュニケーションを取りたいと思います。

街並部会

白石城・上山城研修

副部会長 中村 利孝

三春秋まつりで街並部会の石柱拓本ラリーに多くの参加希望者があり、ほっとしたところでその二日後研修に出かけた。初日は、伊達家の重臣片倉十郎とその後十代にわたり片倉氏の居城として知られる「白石城」。日本古来の建築様式を採り入れた数少ない木造復元天守閣で、最上階から眼下に白石城下が一望できる。そのあと清流に面した二百

六十年ほど前に建てられた旧小関家武家屋敷を見学。翌日は宿から歩いて上山藩武家屋敷へ。四軒のうち公開している三輪家を見てその足で「上山城」へ向かった。室町初期の建築、元禄五年幕府令で破壊され、これを昭和五十七年に鉄筋コンクリート造りで、城郭風の郷土資料館として建設された。今回研修したお城は保存状態が良かったが全国的には高度成長期に再建されたものが多く、老朽化による建て替えや改修が大規模なコスト増、材料の確保、耐震問題に阻まれ前進を妨

城下町・三春中心街散策路の紹介 ②

～桜谷散策路～

地域部会 部会長 鈴木 武

桜谷散策路は三春町歴史民族資料館入口の左手から町道恵下越線に出る小路である。三春は自然豊かな阿武隈高地にあって原始時代の規模な集落跡や古代の田村麻呂に関する伝説、中世の田村庄司と三春田村氏にはじまって近世の蒲生氏、松下氏、11代続いた秋田氏、さらに自由民権運動など三春の歴史は限りがないほどたくさんの人物に彩られています。歴史民俗資料館にはこれら三春の歴史と文化を紹介しています。木漏れ日の差す小路を散策しているとお城山と城下の一部を見渡せる平場に出ます。さらに歩を進めると竹林がありこの竹林を出ると福聚寺のお墓群がある町道恵下越線上にでます。左に折れ進むと平成23年3月に発生した東日本大震災で避難を余儀なくされた人々が一時的に生活する復興住宅の建設が進められている団地があります。右に折れると歴史民俗資料館の裏手に出ます。この小路をさらに左に進むと資料館の裏門に出るT字路に出ます。右側は桜川沿いの役場方面、左に出ると福聚寺の正門のあるところに出ます。福聚寺は臨済宗のお寺で暦応2(1339)年、田村輝定により現在の郡山市日和町八丁目創建され、永正元年(1504)年、田村義顕の三春移城に伴い現在地に移されました。田村氏菩提寺の福聚寺には数多くの文化財があります。町指定文化財のひとつ田村氏三代の墓は、本堂に向かって左手奥にあります。大きなモミの木が目印です。また境内を彩る紅いだれ桜とソメイ吉野桜は桜を撮るカメラマンにとっては数多くある三春の魅力ある桜のひとつです。

環境部会

通学路放射線量の測定を実施

部会長 長谷川良一

平成二十三年三月十一日に起こった東日本大震災による東京電力福島第一原発の事故が発生してから四年半が経過しましたが、現在も三春町内各地で放射線除染が進められているところがあります。三春まちづくり協会・環境部会では「誰もが暮らしやすいまちづくり活動」をスローガンに前年に引き続き町内の通学路の放射線量測定を行うことといたしました。放射線量の測定場所(七〇地点)と測定期間(八月十五日～九月二十日)は前年と同じです。

放射線量測定結果をみると、測定七〇地点すべてが〇・二マイクローシーベルトを下回っており、特に新町地内では前年より半減しているところが五地点ありました。しかし、上昇しているところも一〇地点あり八幡町地内では八地点が上昇していましたが、また、前年と同じ数値のところは七地点、〇・一マイクローシーベルトを下回ったのは七地点ありました。最高値は〇・一九、最低値は〇・〇八マイクローシーベルトで、前年と比較すると最高値は低くなりましたが最低値は高くなっていました。今回も、交差点等で測定中に自動車通過すると放射線量の数値が上昇するとの報告がありました。

編集後記

三春張子人形は、昭和三十年頃まで地元ではまったく忘れられた存在の人形で、関西のコレクターが三春張子人形を集めていてそれを小沢太郎氏、デコ屋敷の橋本広治氏の両氏が見に行きデコ屋敷の古い木型の用達がわかったというくらいでした。▼人形は地元や関東にも残ってはいなくて見つかつたのは山形の紅花商人の蔵の中でした。江戸時代文化文政の頃、山形には北前船で京都の文化が入り、飢饉もそれほどひどくなく、特に紅花商人は金持ちが多く仙台の堤人形、山形の相良人形、三春の張子人形等を集めてコレクショントして楽しんでいたのでないか。▼戦前から一部の人形には、幻の三春張子人形と言われているが、三春張子人形の中からは多くの三春張子人形が見つかった。▼三春から山形に行くのは大変な峠を越えなければならなかったのだが、それでも山形まで行ったのは、人形を高値で買ったからで、理解のある客がいたからである。多分一年の間に作られた人形を農作業が終わった秋に、行李に入れ背中担ぎ険しい栗子峠を越えて行ったのではないだろうか。▼でもそれは一人の天才人形師とそれを理解した客のどちらかが欠けた時点で途絶える運命であり、三春張子人形が忘れられた一因ではないかと思う。三春張子人形は私が思うに、郷土玩具ではなく一部のコレクターアイテムではなかったかと。今から二百年前の昔の話である。(河口 一)

「三春わが街」第七十八号
発行日 平成二十八年一月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町大字真字泉沢二〇一
(六二) 三九八八